

「大阪都構想」4党討論会

2020年10月6日

新型コロナの見通し 甘すぎない!?

市長、検査が足りない自慢!?

住民投票を前にした公開討論会で、松井市長はPCR検査数が足りていないことについての認識を問われ、「検査をこれ以上増やしても、大阪市の保健所体制では、どうやってサポートするのか」と聞きなおり。「保健所体制が足りないことを市長が自慢されても困る」と批判を浴びました。集団感染が起これば、保健所はさらにひっ迫します。「第3波」に備え、いまの段階でPCR検査を拡充すべきです。

財政シミュレーションにコロナ反映されず

大阪市はコロナで500億円の税収減の見込みです。しかし特別区が、財政的に成り立つかを示した財政シミュレーションには、コロナでの税収減や支出の増加は反映されていません。また、特別区が黒字として成り立つ最大の根拠が大阪メトロからの配当です。大阪メトロも大幅赤字です。

松井市長は、「コロナが収まれば、元に戻る」と言いますが、困るのは市民なのにも甘い見通しです。



その後大阪府は1917年、わが国初の結核対策病院として刀根山療養所を設立。他にも、全国初の児童相談所・公共託児所設立などをすすめました。

新型コロナ対策でもっとも必要とされるのは、命と健康、暮らしを第一にした政治姿勢です。

大阪府制が発足した1889年当時、大阪はコレラが猛威をふるい、1886年には府内で死者が1万人をこえます。仮病院では追いつかず、大阪府が天王寺病院、桃山病院を設置し、大阪府制施行直後、2つの病院を伝染病流行時の指定病院として、市内に発生した伝染病患者を、全額市費負担で治療し、伝染病の撲滅に全力をあげます。以来各種伝染病用の常設病院となり、診療と研究を主事業にします。

大阪市今昔物語

2

桃山病院—— 感染症に発揮された 大阪市の力



桃山病院跡地に立つ慰霊碑